Japan Heart

年次報告書

2017.4.1～2018.3.31

2017 Annual Report

2017年度 受賞

保 健 文 化 賞

社会貢献者表彰

私たちの活動が
評価されました。

「あなたが生まれた時代」

自分が生まれた時代はある大きな変化の起こる前の最後の時だったのではないかと最近強く感じている。そして時は既に新しい次の時代に突入し、もう私たちが信じてきた感覚や考えはあまり役に立たなくなっているのではないかと。

この時代は個のなかに閉じ込められた経験の蓄積よりも開かれた挑戦を求める。バラバラだった個の経験は公の仕組みのなかに蓄積され人類の共有の財産として解放される。アジア、とりわけ日本は自ら変化を起こすのが不得意で、一旦、固定化されたものは長い年月をかけて緩やかにごく自然に滅びていく以外、人為的な力によっては変化は起きず、起きてもその芽は早いうちに刈り取られ、たとえ滅びることがわかっていても誰も止められず、破滅に向かって確実に進んでしまう。

上手くいけばそれは豊穣な文化になり、悪く作用すると国を滅ぼし、社会を停滞させ、企業を潰し、新しい時代に突入した今も個の時間と自由をいつまでも奪い続ける。

「もう新しい時代ですよ！」といつも言っていることを今日も繰り返す。

結果は蓄積されても、挑戦は増やすことはできない。だから、結果の蓄積を持っている大人よりも、挑戦する時間とエネルギーをもつ若い世代の圧倒的有利な時代になったはずなのに。

お金はその作用を少しずつ変えて、特別な価値をもつ人間、挑戦するエネルギーをもつ若者たちに投下される準備が整っているのに、それを受けとる人間が足りていない。

とっくに幾つもの仕事、幾つもの才能を追い求めていい時代なのに１つの仕事、１つの才能だけに生きなければならないとまだ思い込んでいる。

将来、人工知能の発展で人々は衣食住への不安から解放されていくのに、相変わらず昔のように苦しい未来を想像し、今を犠牲にしてもっと楽に生きれる未来に廻している。

ここからの時代は多くの人類が長い長い犠牲を払って若者たちに用意した全く新しいチャンスにあふれた時代なのだから、上手く使ってほしい。

本当はアジアもアフリカもそして日本も、もっともっと豊かになれるはずだ。

多くの若者たちが時代にあった生き方さえしてくれれば時代はもっと加速する。

そうすれば未来から豊かさがこっちに向かってやってくるはず。

特定非営利活動法人ジャパンハート　最高顧問 / ファウンダー

吉岡秀人

ジャパンハートのあゆみ

1995
吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始

2004
国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・国際看護長期研修）

2008
《日本》東京事務局開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《日本》僻地離島支援開始
《日本》心の医療事業開始
（現・すまいるスマイルプロジェクト）
自由都市・堺　平和貢献賞　奨励賞受賞
NPO 法人格取得

2009
《カンボジア》医療支援活動を開始

2010
《ミャンマー》養育施設 DreamTrain 開設
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設
大山健康財団賞受賞（吉岡秀人）

2011
《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定 NPO 法人」として認定を受ける
《日本》宮城県石巻
「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設

2012
大山健康財団賞受賞

2013
《ラオス》医療支援活動を開始
《タイ》バンコクオフィス開設
《フィリピン》台風30号緊急医療支援

2014
《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
外務大臣表彰
沖縄平和賞受賞
「明日の象徴」受賞（長谷川彩未）

2015
《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
大山健康財団 激励賞受賞（河野朋子）

2016
《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（ジャパンハート医療センター）開院
《ミャンマー》小児心臓病サポート開始

2017
社会貢献者表彰受賞
保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／ NHK 厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）
《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始

これまでの主な TV 出演

2005　テレビ東京「ここにいのちある限り」
2007　TBS「夢の扉」
2009　NHK 教育「ETV 特集～ミャンマーに医療の架け橋を」
毎日放送「情熱大陸」1回目
2010　毎日放送「情熱大陸」2回目
テレビ東京「世界を変える100人の日本人！」
2011　毎日放送「情熱大陸」3回目
2013　NHKBS プレミアム「輝く女」
朝日放送「こんなところに日本人」1回目
2014　テレビ東京「未来世紀ジパング」1回目
内閣府テレビ CM　出演
2015　読売テレビ「グッと！地球便」
2016　朝日放送「こんなところに日本人」2回目
テレビ東京「未来世紀ジパング」2回目
NHK E テレ「先人たちの底力 知恵泉」
2017　フジテレビ「あいのり：Asian Journey」
テレビ東京「未来世紀ジパング」3回目

カンボジアの子どもたちに

Asia Alliance Medical Center（ジャパンハート医療センター）

▶アジアの子どもたちの未来を担う拠点病院を目指して

2016年に開院した「ジャパンハート医療センター」は、2018年、阿部亮財団の支援のもと、同じ敷地内に小児病棟を建設し、「ジャパンハートこども医療センター」と名称を新たにしました。周産期医療に加え、貧しい子どもたちを救うため、小児がんを含む小児診療を中心とした医療活動を無償で行います。

ジャパンハートこども医療センターは、カンボジア全土の子ども、さらにはアジア諸国の貧しい子どもたちのがん治療を担う医療施設を目指します。

突出した小児がん医療技術の提供を無償で行いながら、カンボジア国内の有力国立病院とお互いの得意分野を活かして補完し合い、国内の小児の診療体制を構築していきます。

▶多くの子どもたちが諦めてきた「生きる道」

日本では80%以上が完治すると言われている小児がんは、カンボジアでは20%も治りません。

カンボジア国内で小児がん患者は毎年600名ずつ増加している一方、カンボジア国内で治療を受けた子どもは患者全体のうち200名程度。

病気についての知識がなく病院へ行くのが遅れる、治療できる施設が少ない(国内で小児がんの治療を受けられる病院はたったの3つ)、治療ができても血

○国家プロジェクトを支援！ 小児生体肝移植

現在、ミャンマー国内で肝移植手術を必要とする子どもたち（推定年間約250件）は、移植を受けることなく最期を迎えています。

本プロジェクトはジャパンハートが、ミャンマー政府から国家プロジェクトである小児生体肝移植の技術移転への協力依頼を受けたことからスタート。九州大学病院と協働した、ミャンマー国内での小児肝臓・胆道病治療から始まり、2019年の肝移植実現へと段階的に進行しています。ミャンマー国内の小児肝移植手術の実施と専門医師の育成により、今まで救えなかったミャンマーの子どもたちを救う医療支援です。

›これまでの実績

2016年11月	小児肝臓・胆道系手術（ヤンゴン小児病院）
2017年 3月	九州大学病院でヤンゴン小児病院医療チーム第一陣を招き小児生体肝移植の見学を実施。
2017年 9月	小児肝臓・胆道系手術（ヤンゴン小児病院）
2017年10月	九州大学病院でヤンゴン小児病院医療チーム第二陣を招き小児生体肝移植の見学を実施。
2018年 2月	小児肝臓・胆道系手術ミッション（ヤンゴン小児病院）
2018年 3月	九州大学病院でミャンマー人患児の生体肝移植手術を行うと共にミャンマー人医療者への技術移転を実施。

›オッカー・チョーくん（3歳）来日！

「長くて4歳。あとは肝臓移植しか助かる道はない。」

ミャンマーではできない肝移植。海外での手術費用は莫大で、両親はただただ泣くしかなかったそうです。しかし親子はジャパンハートのサポートを受け、2017年3月に来日し、九州大学病院で肝移植手術を受けました。

お母さんは手術を待つ間、こんな話をしてくれました。「病気を持って生まれたのは自分の妊娠中の不注意のせい」と自分を責めていたこと。今まで同じ病気を持つ子どもたちを何人も見送ってきたこと。そして、「こんな思いをする人たちがなくなるよう、ミャンマーの医療が発展して欲しい」と。

9時間に及んだ手術は無事、成功！オッカー・チョーくん親子はミャンマー帰国を目指して、今も闘病生活をがんばっています。

ジャパンハートはミャンマーに小児の肝移植が根付くまで、共に歩み続けます。

国内で小児がん治療を

液がんのみなどの理由から多くの子どもたちが治療を受けることができません。治療には、半年～1年の時間がかかりその費用は（推定）総額250～300万円です。国土のほとんどを占める農村地域の平均月収は2～3万円。社会保障（健康保険制度など）が脆弱なため、金銭面の大きな負担から治療を諦めざるを得ないケースが多くあります。生きる道が閉ざされるのです。ジャパンハートは、それを決断せざるを得ない家族と子どもたちを救うため、このジャパンハートこども医療センターを作りました。

▶ジャパンハートで開始される「小児がん」治療

›パンニャくん（8歳）

―当院で初めて小児がん患者の手術を実施―

パンニャくんは昨年5月にお腹の痛みがあり、現地の病院を受診したところ、神経芽腫という小児がんでした。現地の病院で抗がん剤治療を行っていましたが、手術ができないためジャパンハートに相談がありました。2017年12月にジャパンハート子ども医療センターで8時間以上かけて腫瘍をすべて摘出。手術後の回復は早く、数日後には歩けるようになり、10日後には退院。現在は再発予防のため抗がん剤治療を続けています。

現地からのVOICE

Laos

両側甲状腺腫瘍　Phong Lai さん(42歳)

ウドムサイのドクターに勧められ、来院しました。良いプロジェクトで医療が受けられて嬉しいです。

日本のドクターからここで医療が受けられることは私たちにとってとても良いことです。ジャパンハートの患者になれてとても嬉しいですし、このプロジェクトをウドムサイで長期的に続けていって欲しいです。

ジャパンハートは貧しい患者にとってとても助けになります。

Myanmar

熱傷瘢痕　Mg Zun Htet Lwin くん(9歳)

僕の村から病院まで4時間かかったけど、来てよかった。1歳の時に足をやけどしたけど、お金がなくて手術できなくて、ずっとそのままだったんだ。

日本の先生に手術してもらってうれしい。早く学校に行って、友達とサッカーしたい。

大きくなったら、お父さんの家具作りの仕事を手伝うよ。早くお金を稼げるようになってお母さんを楽にさせたいんだ。

Cambodia

心不全　Chouch さん(34歳)

もともとは別の病院に入院していたのですが、医療費が足りなくなり仕方がなく退院しました。

その後また体調が悪くなったのでとても困っていたところを、親戚のおばさんの勧めで受診しました。

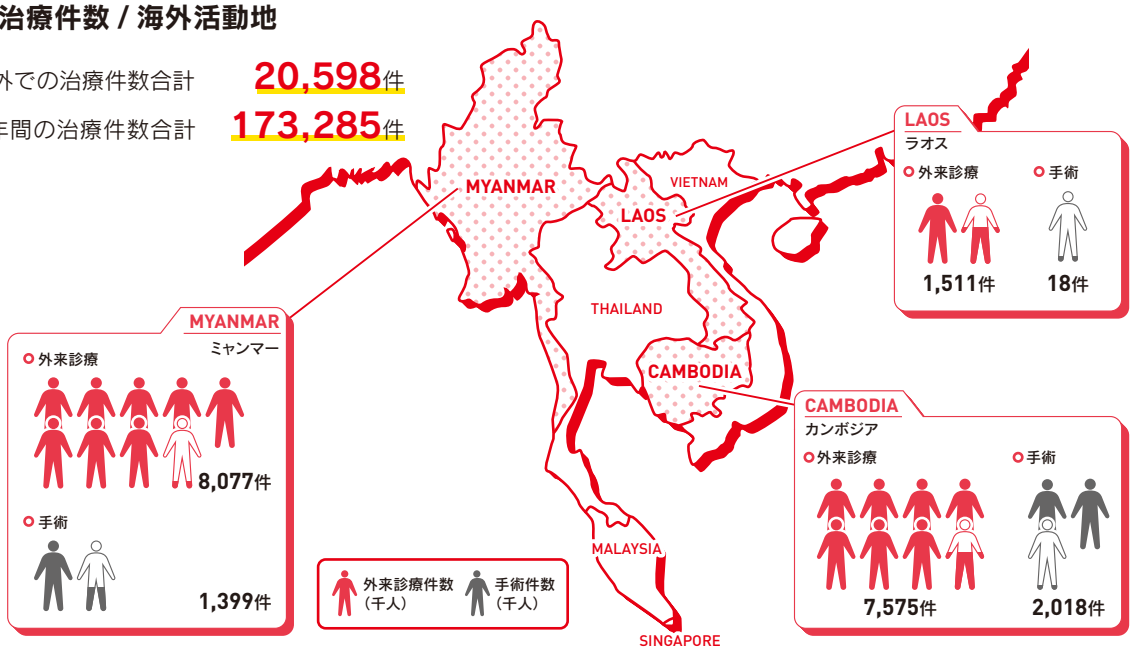
ジャパンハートのみなさんはとても丁寧に優しく対応してくださり、薬も飲んで体調も良くなって良かったです！　小学生の子どもの為にも早く良くなりたいです。

2017年度ジャパンハート活動ハイライト

ジャパンハートは2017年度も多くの皆様に支えられ、「医療の届かないところに医療を届ける」活動を行い、医療の分野で活動国に貢献することができました。

▶2017年度治療件数 / 海外活動地

- 2017年度海外での治療件数合計　**20,598**件
- 設立から14年間の治療件数合計　**173,285**件



2017

4月　5月　6月　7月　8月　9月

すまいるスマイルプロジェクト「東京ディズニーランドご招待企画」に、6組の小児がんのお子さまと11名のご家族を招待／**日本**

iER ボランティア登録制度　本格始動／**日本**

第48回社会貢献者表彰「社会貢献の功労」において受賞

「子どもたちが手術を待つミャンマーの病院に医療ライトを届けたい」クラウドファンディング／**ミャンマー**

養護施設 Dream　Train　から11名がサッカーの代表選手に選抜。ヤンゴンの大会で優勝／**ミャンマー**

ご寄付いただいた胎児心音計の寄贈とセミナー、モニタリングを実施／**ミャンマー**

マグエ病院にて、日本の医療チームが、4日間で53名の口唇・口蓋裂患者の手術を実施／**ミャンマー**

山岳地域の村へ、クラウドファンディングで購入したドクターカーでの巡回診療を開始／**ラオス**

診療体制が整い、安定した運営が可能となったため、ペイリアン病院での支援完了／**カンボジア**

LBS（一次救命措置）・ファーストエイドトレーニングを継続実施／**ラオス**

2018

10月 **11月** **12月** **1月** **2月** **3月** **4月**

第69回「保健文化賞」受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）

恋愛観察バラエティー「あいのり：Asian Journey」エピソード8（人生を救え！）で、ワッチェ慈善病院と吉岡秀人が出演／**ミャンマー**

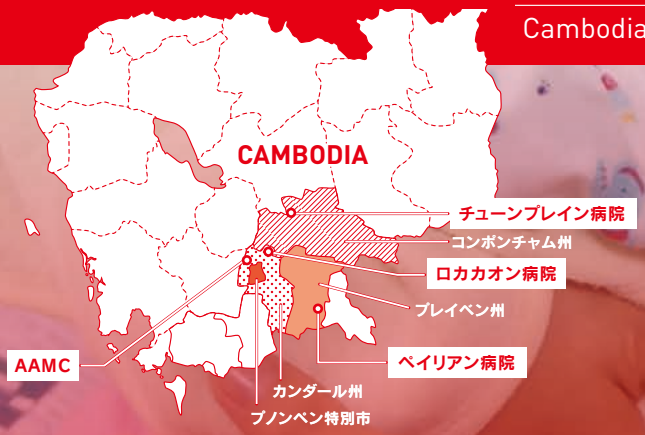
医療学生の奨学生支援により、2名が卒業し看護師となった／**カンボジア**

テレビ東京「未来世紀ジパング～沸騰現場の経済学」「世界を救う日本の医療！日本のスゴ腕医師が、世界の人々を救う。」に吉岡秀人出演

来日治療を行うと共に、ヤンゴン小児病院から医療者を招き、小児肝移植の技術を移転／**ミャンマー**

東日本大震災心のケア活動を完了／**日本**

カンボジア
Cambodia



20年に及んだ内戦の爪痕が
今もなお深く残るカンボジア。
知識人の大量虐殺により、
当時残った医者はたった40名だと言われている。
貧しい人々に医療の届かないこの国では、
１歳に満たない子どもが
年間約１万人も亡くなっている。

カンボジアの未来の医療を担う。その覚悟を持って、次の一歩へ。

▶医療活動

2016年５月に開業したジャパンハート医療センターが２年目を迎えました。通年で診療・手術活動を行うNGO病院として、隣接するカンボジアの公立病院と連携しながら医療活動を行ってきました。信頼度の高まりから対象患者は州内を中心として近隣州からも集まり、前年を大きく上回る数の治療を実施し地域に根差した病院としての役割を拡大しています。医療者スタッフは医師７名、看護師16名、助産師５名が在籍し（全て日本人カンボジア人含む）、現地での若い医師・看護師を積極的に採用するなど、今後のカンボジアでの医療レベルの底上げに貢献すべく人材育成にも力を注いできました。

周産期部門では今年度、寄贈されたエコー機器を用いた妊婦健診活動や母親学級など、地域の妊産婦へ安全な分娩を提供する活動を開始しました。周産期での知識が少ないカンボジアの現状を改善すべく取り組みを進めています。

また、地域全体での医療レベル向上を目指し2009年から支援を行ってきた３つの提携病院では、手術活動を中心とした技術指導も引き続き行ってきました。そのうちペイリアン病院については、診療体制・患者数・手術実施について、自立して安定した運営が行われるレベルとなり、同病院院長及び地区保健行政長と合意のうえ、支援を完了することができました。

実　績　診療7,575件　手術1,187件　分娩831件

活動地　ジャパンハート医療センター（Aisia Alliance Medical Center）・ポンネルー病院・バティエ病院・ロカカオン病院 / カンダール州、ペイリアン病院 / プレイベン州、チューンプレイ病院 / コンポンチャム州

▶カンボジア病院建設事業（ジャパンハートこども医療センター）

「アジアにおける小児がんを含む小児医療の拠点病院になる」ことを目指し、新病棟の建設工事を開始しました。新病棟では小児科部門を新設のうえ小児がん治療を開始し、2018年６月の開院から「こども医療センター」へと発展させる計画です。

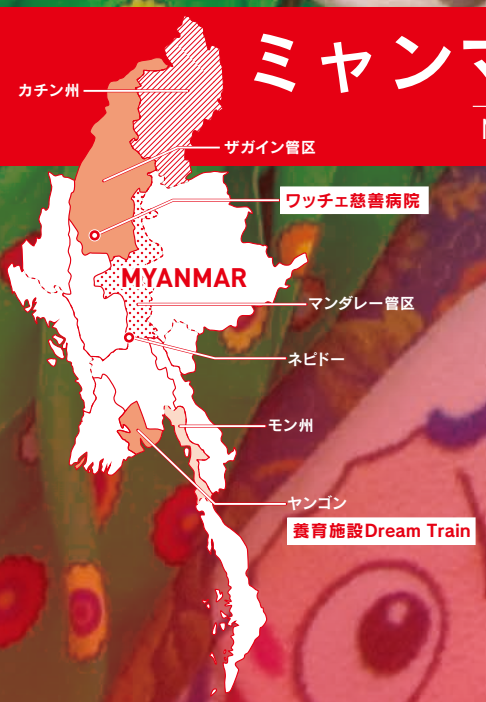
▶医療学生育成活動「夢の架け橋プロジェクト」

2010年より奨学金制度を用いて、優秀ながらも貧しく進学を断念せざるを得ない学生たちの「医療者になって、自分の国や村の人たちの役にたちたい」という夢を応援してきました。2017年度はカンボジア日本友好学園、ブロモプロム高校の２校で募集を実施し医学生２名・看護学生３名の計５名を採用しました。継続的な取り組みとして行ってきた本事業は、現時点で在籍奨学生が計25名（医学生13名、看護学生９名、看護師３名）となり、日々切磋琢磨しながら勉学に励んでいます。

また、12月には２名が大学を卒業し看護師になり、ジャパンハート医療センターで２年間の卒後研修を開始しました。

ミャンマー

Myanmar



都市部の発展が進む、ミャンマー。
しかし、国土のほとんどを占める農村部には
貧しい村々が広がる。
保険制度も整っておらず、貧しい人々は
病院へ行くことを諦めてしまう。
そして国境地域では、貧しさ故に、子どもたちが
たった数万円ほどで人身売買されている。

日本の技術で子どもたちを救う
その道を切り開く事こそが私たちの役割

▶医療活動

団体設立時から14年にわたり無償で続けてきたワッチェ慈善病院での医療活動。貧しく医療を受けられない人々を対象に通年の外来診療と月１～２回の手術活動を継続しています。安定した活動の中で、ベテランとなったミャンマー人看護師は日本から来た看護師を指導できるほどの的確な知識を身に付けるなど、現地の医療者を長く育成してきました。同時に奨学生として医学生５名、看護学生５名を受け入れ、ミャンマーの未来を担う医療者の育成を行っています。

一方で、2017年は治療に高い技術を要する小児患者の治療とミャンマー人医療者の育成を目的とした日本の専門科チームによる手術活動を数多く実施しました。

小児泌尿器疾患手術（７月、12月）、小児外科チームによる小児腹腔鏡手術（10月）、形成外科・口腔外科チームによる口唇口蓋裂手術（11月、2018年２月）。

さらに、2016年に始動した小児生体肝移植プロジェクトは、2018年度内のミャンマー国内での実現を視野に入れ、プロジェクトを前進させました。ミャンマーの小児医療の中核を担うヤンゴン子ども病院の医療者へ段階的に技術移転を行い、３月にはミャンマーから患児とドナーとなる父親、現地医療者を招き、生体肝移植を実施すると共に医療者のトレーニングを行いました。（※詳しくはＰ４へ）

実　績　**ワッチェ慈善病院 > 診療7,793名　手術1,224件**
専門科医療活動 > 診療284名　手術175件

活動地　**ワッチェ慈善病院 /ザガイン管区、ヤンゴン子ども病院、ヤンキン子ども病院、マンダレー子ども病院、マグエ病院、ザガイン病院、カチン州、シャン州**

▶小児心臓病サポート

産経新聞「明美ちゃん基金」協力のもと、５年計画の３年目事業としてヤンキン子ども病院で２回の小児心臓病プロジェクトを実施。

日本から小児循環器・心臓血管外科と麻酔科の医師、計24名を派遣。93名の心臓病疾患児を治療しました。また、ICU 医師と小児循環器医師の日本での研修も実施しました。

▶視覚障がい者自立支援

ミャンマー社会福祉省の依頼により、医療マッサージの資格化を目的とした「資格化推進委員会」の形成のため、統一カリキュラムの作成と免許制度の整備を実施しました。2018年１月には初回の委員会を開催。３月には「Task Force」を開催し、ミャンマー視覚障がい者政策の具体的な検討にコマを進めました。

自立支援として、医療マッサージ職業訓練１年コースを開講。また技術の向上を目指し、日本から医療マッサージ専門家を招き、全国セミナー（８・３月）を実施しました。

▶養育施設 Dream Train

貧困から十分な食事や教育が得られない子どもたちを引き取り、自立を目指すこの施設には、現在167名が在籍。2017年度は男子棟トイレを増設し、南京虫の発生があった女子棟の床のタイル敷きを修繕しました。

昨年に引き続き、外部指導者によるパソコン、語学、ダンス、サッカーに加え、縫製などのアクティビティーを開始しました。ヤンゴンにある全ての学校が参加するU13サッカーカップでは施設から11名が学校代表に選ばれ、見事優勝を果たしました。

また、３名が家庭の経済状況の好転等で帰郷、15名がIT企業、美容院、飲食店、車両整備会社、医療関係機関への就職が決定し、卒業後の自立への道を大きく切り開きました。

▶サイクロン孤児支援

2008年にミャンマー南西部に甚大な被害をもたらしたサイクロンによる孤児を対象に大学生９名、高校生14名、中学生６名、小学生３名の生活・教育・医療面での支援を継続しています。今年度は１名が大学卒業と就職を迎え、支援を卒業しました。

ラオス
Laos

ラオスは多くの NGO や国家機関が
支援を行っているにも関わらず、
後発開発途上国から脱却できずにいる。
いまだ道路などのインフラも整っておらず、
地方の貧しい人々は
医療にアクセスすることさえ困難な状況が続く。

地方の貧困地域に医療を
自立したラオス人医療者の育成へ

▶医療活動

ラオスの人口の４分の１は未だ貧困状況（一日当たり1.25米ドル未満の生活）にあり、特に国土の７割を占める山岳地帯や高地居住者の貧困状況が深刻です。

都市部から数百 km 離れた北部や南部地域は医療へのアクセスが困難である一方、都市部では、民間クリニックや病院などの進出が見られ、富裕層・中間所得層が、より質の高い医療サービスを求め隣国タイなどの病院を受診する傾向があり、その格差は開いていく一方です。

ラオス北部では甲状腺疾患の患者が多く、土地のほとんどが山岳地域を占めるポンサリー県と、その周辺地域の人々が受診しやすいウドムサイ県で、現地の病院と協力しながら活動を実施しました。しかし、ジャパンハートの活動の継続を考えると、ポンサリー県での治療は病院へのアクセスがあまりにも悪く、安全な治療の提供や支援を実施していく上で不安定さを伴います。そこで2017年度は、ウドムサイ県病院での医療支援活動と現地人医師の指導に注力しました。北部の人々がアクセスしやすいウドムサイ県病院で、将来的に現地人医師の手による甲状腺疾患の手術を実現することで、北部の患者の治療を担う病院として自立することを目指します。

2016年のご支援で導入されたドクターカーは、モバイルエコー、心電図など甲状腺疾患の診断に不可欠な機材を積み、ウドムサイ県の医療現場で大活躍しています。2017年度は、MOU（活動許可に関する覚え書き）の更新手続き期間となり活動内容に制限があったものの、次年度へ続く基盤固めの年となりました。

また、2013年より医療活動を行ってきたパークグム郡病院では、2016年までの３年間で病院と協力しながら30回の手術活動を実施、合計で550件以上の手術を行いました。しかし、この時点ではまだ、病院主体で手術を行った経験は無く、目標である現地医療者たちだけで手術を行えるよう環境を整え、医療者の技術を向上させることが完了できていません。

2017年３月には同地域の寺院からの支援で大きな手術棟が新しく設立されました。ジャパンハートは、この病院の試みをサポートするために、特に外科医及び看護師の育成に関して支援を行っています。

実　績　**診療1,511名　手術18件**

活動地　**ヴィエンチャン特別市　パークグム郡病院、ウドムサイ県病院、ポンサリー県ニャットウー病院、ポンサリー県病院**

▶一時救命措置、ファーストエイドトレーニング

近年、車やバイクの数も増え、交通事故が飛躍的に増えているラオス。一方で、医療事情は遅々として改善しません。人々は多くの危険と隣り合わせであるばかりか、様々な場面に出くわします。そんな時、ヴィエンチャン首都にでもいなければ、近くに病院もなく、呼べる救急車もなく、自ら対応しなくてはいけないことも多々あります。

ジャパンハートでは、ラオス国立大学森林学部の学生を対象に一時救命措置、ファーストエイドトレーニングを９回実施。計166名の学生に、森林でけがをした際の応急処置法の習得と安全に対する意識の向上を目指し、トレーニング行いました。その他、インターナショナルスクール、日系企業でもトレーニングを実施しました。

国際緊急救援（JH iER）

▶事業体制の強化

2017年度は中田敬司氏（神戸学院大学教授）、サニー・カミヤ氏（一般社団法人日本防災教育訓練センター代表）を事業顧問兼 Task Force とし、国際緊急救援事業の国際基準取得を目指しています。

また、災害時の派遣員整備のためのボランティア登録制度を開始。派遣人材の最低水準を設け、研修を中心とした育成と事前登録制度を設置し現在の登録者数は47名となりました。

▶熊本地震　復興支援

2015年緊急救援後、定期訪問を継続。2017年度は２回の訪問を実施、関係者とのコミュニケーションを通して復興の道のりを追いました。１月には現地関係者２名を招待し、東京で災害対応イベントを開催。減災活動の重要性を啓発しました。

▶緊急時医療人道支援活動を可能にする現地団体との協力

インドネシア＞ 現地 NGO 「Indonesia Disaster and Emergency Foundation」との協議を通し、緊急時への準備を進行。インドネシア国への INGO 登録について保健省にて最終協議を実施しました。

タイ＞ 現地財団「カセー・チャナオン財団・関連大学（College of Asian Scholars）」を招き大学職員・学生の研修を隠岐島前病院で実施（海外僻地医療研修）。「国際看護」「災害看護」等の分野で講師として教員との協働、学生指導にあたりました。

フィリピン＞ 現地 NGO 「AMITY」との MOU（覚書）締結最終段階に入りました。また、保健省との MOU 締結に関して交渉を進行しています。

ラオス＞ 事業関係者により政府機関「Department of Disaster Management and Climate Change」を訪問、災害時協力体制につき継続協議を確認しました。

その他、**カンボジア**、**ミャンマー**でも協力体制について確認を行いました。

グローバル人材育成

▶日本に還元される人材育成のかたち

ジャパンハート設立からこれまで行ってきた173,285件の医療活動は、日本から参加されるボランティアの方々に支えられています。これまで、のべ3,710名がジャパンハートの海外活動地で活躍してきました。

近年は、参加しやすいツアーの実施やカンボジア短期インターンの受け入れにも力を入れ、学生や社会人の参加も増えました。医療者についても医師、看護師に限らず、薬剤師・助産師の活躍の場も広がっています。

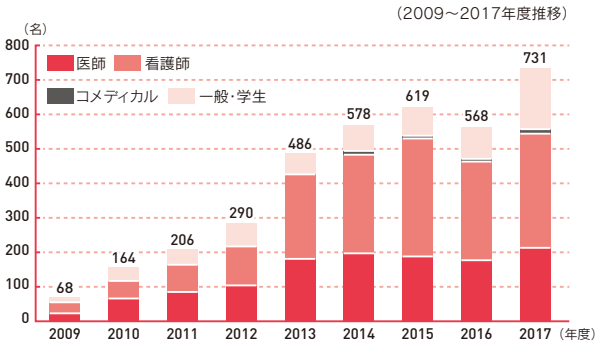
ジャパンハートが積極的に行う海外でのボランティアの受け入れは、途上国での支援経験を通した「国の宝となる人材」の育成を目指し、今後も続けていきます。貧しい人々の助けになる活動を行い、帰国後日本でその経験を職場や学校、家庭で活かしてもらえる事を望んでいます。

▶職場や学校の休みを使って「国際協力」

カンボジアでの病院開設に伴い、より多くのボランティアの受け入れが可能となりました。現地の人々と触れ合いながら、設備が整わず、衛生環境も安定せず、停電も起きる途上国の医療現場で支援のお手伝いをします。赤ちゃんの誕生に出会う機会も多くあり、一生忘れられない貴重な経験となります。

「最短2日から、語学・キャリア不問」の国際医療ボランティアはもちろん、「高校生ツアー」や「看護師ツアー」「支援者様限定ツアー」など、参加しやすいコンテンツを年々増やしています。

2017年度海外活動地への参加者数



▶「自分の医療を変える」長期研修

ボランティアとしてではなく、医療者として「学び」を得るために参加する「国際長期看護研修」があります。途上国の病院と日本国内の僻地・離島の病院で、臨床を実践しながら総合的な看護能力を学びます。来年度からは「助産師研修」も開始されます。

この研修を経た看護師の皆さんの進路は様々ですが、自身の看護観を見直し、海外や離島の診療所など、次のステップへ進んでいきます。

すまいるスマイルプロジェクト

▶かけがえのない時間を、ご家族に

小児がんを患う子どもとその家族の旅行や外出を医療者がサポートする本プロジェクトは、疾患や治療の影響により外出に不安のある子どもと家族にかけがえのない時間を安心して過ごしてもらうため、そしてその後の治療を頑張る勇気となるよう願いを込めて活動を行っています。

▶より細やかなサポートを

2017年度は５件の個別企画を実施しました。そのうち３件は、旅行を通して「子どもの笑顔がふえました。」「学校と治療を頑張る！」などの声をいただき、今後の生活や治療に前向きに取り組むきっかけにもしてもらえたようです。うち２件は尊く大切な思い出として、家族から感謝のお手紙を頂戴しました。家族それぞれの想いに寄り添うプロジェクトでありたいと思っています。

▶多くの家族が参加できる体制へ

複数の家族を１つのイベントに招く「招待企画」を数多く実施することができました。恒例となったキッザニアやキッズセミナーに加え、大阪開催の「親子で楽しむコーヒーセミナー」や長崎開催「ハウステンボスご招待企画」も新たに実施し、回数や開催地域を拡大することでより多くの家族に参加いただけるイベントを開催しました。企画の特徴として、医療者以外のボランティアの支えがイベント運営の柱の一つになっていることが挙げられます。一般の方がボランティアを経験されることで、病気への理解を深め、小児がん患児とその家族を社会全体で支える一端を担うプロジェクトとして成長していきます。

◆2017年度開催イベント：東京ディズニーランド（７組25名）、キッザニア甲子園×２回（計13組40名）、キッザニア東京（９組32名）、キッズセミナー / お医者さん体験をしよう（10組35名）、ハウステンボス（５組28名）、親子で楽しむコーヒーセミナー×2回（計7組35名）

ご家族からのお便り

「キッザニア甲子園へのご招待企画」へ参加したお母様からのメッセージ

子どもたちが笑顔で走り回って仕事をする様子が見れて、本当に幸せな気持ちになりました。

治療中は兄たちをどこにも連れて行ってあげれなかったですし、本人も色々なことを諦め治療に励んだので、キッザニアは子どもたちへのプレゼントとなりました。

イベント前は不安もあり、申し込んでよかったのだろうかと思うこともありました。でも当日会場へ着いたとたんに子どもたちが地図とにらめっこし、すぐに走り回って仕事をこなす姿がきらきらしていて、勇気を出して申し込んでよかったと思いました。

私たち家族をサポートしてくれたボランティアさん、このような企画をプレゼントしてくれた皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

参加した皆さんは、思い思いの時間を過ごされました。

地域医療支援 / 日本

▶地域貢献しながら働く→日本を支える医療者育成

日本国内で医療者不足が深刻な僻地・離島への人材支援とジャパンハート所属の看護師の育成を目的として、これまで10年間活動を行ってきました。僻地、離島、被災地を活動地として、昨年度は36名を配置、これまでのべ238名が各僻地・離島の医療施設で活動しました。

2017年より新たな活動地として鹿児島県奄美群島４島が加わりました。

都心部とは異なり、患者とその地域に住む人々が密接に関わりあう環境で働く医療者たちは、「私たちが地域の患者を守る」という使命に溢れています。また疾患を問わず対応すること、限られた環境の中で状況を把握し迅速に判断すること、さらに患者とその家族の想いに寄り添うことが求められるこの場所では、看護師の「人を総合的に診る力」が養われます。

単なる人材の補填だけでなく、このような能力を持つ看護師を育成することで、超高齢化社会を歩み続ける日本の医療に必要不可欠な人材の育成に貢献します。

また、僻地・離島で「地域貢献しながら働く」看護師のライフスタイルを提案する「RIKAjob」を開設。間口を広げ、多くの看護師が各僻地・離島で様々な医療を経験しながら地域へ貢献できるよう、受け入れ病院と協働しています。

活動場所 **島根県隠岐の島、長崎県上五島、長崎県対馬、山梨県牧丘町、宮城県牡鹿郡女川町、気仙沼本吉町、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島**

VOICE | JAPAN　これからも、私の看護観とともに。

アドバンスドナース　**濱田 成美さん**

震災後、沢山の方からの思いで再始動した気仙沼市立本吉病院。
毎日働く中で、スタッフや患者さん、家族の方と関わります。そして、ここでの環境を理解していきました。
毎日のちょっとしたことや、自分の考えを伝えることで自分への刺激となり、自分の学んできたことが当たり前でなく、考えを変え、視野が広がるきっかけにもなりました。
どこにいても自分は看護師で変わらないこと、そして、これからも自分の看護観を軸に、看護師であり続けたいです。

「東日本大震災」復興支援から医療人材支援へ

2011年３月11日に発生した震災直後の宮城県内での緊急医療支援活動を経て、「NPO 法人ジャパンハート　こども・内科クリニック」（2011年12月27日～2014年３月10日）の運営と共に、気仙沼市内の幼稚園・保育所および仮設住宅を対象に、「子どもたちのこころとからだの健全を図る」を目標とした心のケアを実施してきました。

2017年度は日本 EMDR 学会人道支援活動（JEMDRA-HAP）所属の臨床心理士とボランティア看護師による隔月一回の幼稚園・保育所への訪問を行い、個別カウンセリングおよび職員への相談に対応し、対面の相談件数は21件ありました。対面での相談以外にも、園の巡回で子どもの遊びを教諭と一緒に観察しながら具体的なアドバイスを実施することで、「日々の子どもへの対応に軸ができた」という声をいただきました。

気仙沼地区の地域社会資源（保育相談施設、保健師による相談業務の活発化、放課後デイサービスなど）が震災前の状況まで復帰しつつあることや、2012年から文部科学省が一般社団法人日本臨床心理士会と都道府県教育委員会と連携し、気仙沼の小学校にもスクールカウンセラーが配置されたことから、課題のある就学児童について引き継ぎを行うことができました。また、震災の年に出生した子どもたちを幼保育園の教諭や保護者と一緒に卒園まで見守ることもできたことから、当団体による心のケアを終了することとしました。東日本大震災復興支援は今後、宮城県気仙沼市本吉町と牡鹿郡女川町への地域支援として医療人材を派遣して継続します。

震災当初からご支援をいただいた皆さま、実際に仮設住宅におけるボランティア活動や巡回にご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

ジャパンハート代表　吉岡春菜

皆様との活動

私たちの活動に参加しませんか？

▶海外ボランティアツアー

年10回程、一般・看護師・学生を対象とした海外活動地でのボランティアツアーを実施しています。観光をしながら、活動国の文化に触れ、活動地では、ボランティア体験と共に人々の生活を学びます。スタッフが同行するので、１人の参加や海外渡航が不安な方にも大変おすすめです。

▶国内イベント・セミナー

様々なイベントを全国で実施しています。活動の説明や報告を通じて、国際協力への理解を深め、同じ興味を持つ方々との交流の場としています。また、ボランティア参加説明会や講演では、途上国医療の現状、現地の生活、実際に医療活動を行った医療者たちの話を聞くこともできます。

▶海外・国内学生インターンシップ

インターンシップとは、半年から一年程度、無給で団体に従事しながら海外・国内の活動地で事業運営の一端を担い、NPO の仕事を学ぶ活動形態です。2017年度は計４名が参加しました。また、カンボジアのみで受入れを行っている短期インターン制度は２週間から２ヶ月間程度、ジャパンハートこども医療センターで現地スタッフと一緒に活動を行います。

これらの貴重な経験を糧として就職活動に活かす、国際協力の世界に入るなど、皆多くの実りを得て、社会で活躍しています。

▶東京事務局ボランティア・プロボノ

国内外で行う活動の基盤となる業務を行うのが、東京事務局です。東京事務局での運営サポートでは、パソコン入力作業や、資料の発送作業、イベントサポートなどがあります。また、プロボノ支援として、広報活動、WEB ツールの運用、翻訳（英語、ミャンマー語、クメール語、ラオス語）、コンピュータシステム構築、印刷物の企画、デザイン、写真や動画撮影、編集などを募集しています。

すまいるスマイルプロジェクトでの企画サポート、付き添い、しおりやアルバム作成なども、ご協力頂いています。

活動への支援

様々な形でご支援いただけます

ジャパンハートの活動は、皆様の支援により支えられています。
いただいた寄付金・募金は活動地での医薬品・医療器具等の購入及び活動費として
大切に使わせていただきます。

マンスリー寄付

1日約30円からできる、継続的な活動サポートです。毎月決まった金額を寄付することができます。

▶ **オンライン決済 / クレジットカード**

団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。
「毎月、継続的に寄付する」から決済をお願いします。

▶ **口座からの自動引き落とし**

電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて
口座振替用紙をご請求ください。

1回の寄付

▶ **オンライン決済 / クレジットカード**

団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。「今回のみ寄付する」から決済をお願いします。

▶ **下記口座への振込**

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	特定非営利活動法人　ジャパンハート
記号番号	00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	トクヒ）ジャパンハート
預金種目	当座
店名	〇九九店（ゼロキュウキュウ店）
口座番号	0166806

当団体は認定NPO法人に認定されているため、ご寄付をいただくと税制上の優遇が受けられます。

《控除の対象とならないもの》
- 会費（正会員・賛助会員）
- 長期研修参加費
- 短期ボランティア現地医療活動費
- イベント参加費
- 募金箱への募金・匿名寄付

詳しくは最寄りの税務署へお尋ね下さい。

会員になる

正会員・賛助会員（医療従事者・一般・学生・法人）として、ぜひ私たちの活動をサポートしてください。

会員の特典

1. 活動地への短期ボランティア・研修への参加資格
2. 年次報告書(年1回)、メールマガジン(月1回)等の配布
3. ジャパンハート主催会員限定イベントへのご招待
4. 総会への出席と議決権（正会員のみ）

› 法人会員の特典
- 団体ホームページ上の「支援団体・企業一覧」への掲載
- オリジナルのスタディツアーなど特別プログラムの企画・実施、社員様参加時の割引制度など

年会費

	正会員	賛助会員
医療従事者	20,000円	18,000円
一般	10,000円	10,000円
学生	10,000円	6,000円
法人	100,000円	60,000円

お申込み方法

電話：東京事務局へお問い合わせください。
インターネット：団体ホームページの「支援する」→「会員になる」よりお申込みください。

特定の事業への寄付

Dream Train（ドリームトレイン）サポーター（毎月の寄付）

ミャンマーの養護施設「Dream Train」では、設立から7年が経ち、子どもたちの成長と共に、自立が課題となっています。子どもたちの将来を支えていくためには、大学への進学や職業訓練などを通した継続的な支援が必要なため、毎月のご寄付をお願いいたします。サポーター特典として、年に２回、施設の子どもたちからのメッセージと、半年間の活動報告をお届けします。

カンボジアの未来の医療を担う学生を！「夢の架け橋プロジェクト」支援

貧しくとも医療者になることを希望する地方の学生が、大学へ進学し、医師・看護師免許を取得できるよう奨学生支援をしています。農家出身で８人きょうだいのピエンさんは、奨学生の第一号で、ジャパンハートの病院で手術室の看護師として働いています。また、日本語を学び、カンボジアの病院で活動する日本人のサポートもしています。質の高い医療を学ぶ場を提供し、カンボジアの将来に貢献できる医師・看護師を育てるために、ご寄付をお願いいたします。

物で寄付する

身近な物で、寄付ができます。例えば、本１冊で医療施設の子ども１人に文房具を提供、書き損じはがき30枚で5歳の子ども40人に抗生物質の注射をすることができます。

❶古本で寄付する

読み終えた本、DVD、CD など

❷物品で寄付する

未使用切手や使わなくなったカメラや携帯電話など

❸洋服で寄付する

着なくなったブランドものの洋服など

※郵送先は各事業者になります。詳細はホームページをご覧ください

短期ボランティアとして

医療者、一般、学生の方、親子でも参加できます（海外での活動参加には会員登録が必要）。
詳しくは東京事務局までお問い合わせください。

❶ミャンマー

› ザガイン・ワッチェ慈善病院

手術や診察を待つ患者であふれる病院では、外来診察介助、病棟看護ケア介助、医療器具の洗浄の手伝い、患者との交流及び現地人スタッフへの日本語教育など、様々な仕事があります。

› 養育施設 Dream Train

施設での食事作り・掃除・洗濯をスタッフや子どもたちと一緒にお手伝いください。遊んだり、勉強を教えたりと、言葉は通じずとも、子どもたちとの交流が図れます。

❷カンボジア

ジャパンハートこども医療センター、短期ボランティア医療者が主体となり診療・手術を実施します。洗濯や、宿舎や病院の掃除も皆で行います。より多くの方がスムーズに治療を受けることができるよう、患者の案内や誘導の手伝い、入院患者の方との交流を図ってください。

❸ラオス

現地の病院における外科手術のほかに、医療機関へのアクセスが悪い僻地の巡回診療を行っています。ラオスでは短期ボランティア医療者、現地人医療者が主体となり診療を実施します。また、現地人医師・看護師への指導も行います。

広報活動

▶企業 / 団体との主な取り組み：ごく一部を紹介します

※50音順

阿部亮財団

2018年度、カンボジアのジャパンハートこども医療センター開設のための、新病棟の建設、病棟内の医療機器を寄贈下さいました。団体では初となる海外事業地での小児がん治療を開始することが可能となります。

九州大学病院

ミャンマー国内で、現地人医療者による小児生体肝移植を実現するため、年数回、ミャンマーと日本での技術移転と肝臓・胆道系患者の手術に、無償で協力いただいています。

シスメックス株式会社

すまいるスマイルプロジェクトで実施する招待企画に協賛いただき、多くの従業員ボランティアの皆さまに、小児がんの子どもとご家族への支援を行っていただきました。

株式会社粋美

団体活動初期より理念にご賛同いただき、各地での医療支援活動、カンボジアにて未来の医療者を育成する医学生・看護学生奨学金支援プロジェクトなどへのサポートを続けて下さっています。

株式会社大近

ジャパンハート子ども医療センターで活用している心電図モニターや設備設置のほか、手術用器具の買い替えを寄付でご支援いただき、安全な医療活動を継続できています。

高槻東ロータリークラブ

母子医療（妊産婦健診の促進）や貧困層を対象とする診療活動全般において使用する４Ｄエコーと血液ガス分析装置を寄贈いただき、カンボジアにおけるジャパンハート医療センターの活動をご支援いただきました。

タリーズコーヒージャパン株式会社

小児がんのお子様とご家族を招待した「親子で楽しむコーヒーセミナー」で、キッズバリスタ体験やコーヒークイズ、美味しいコーヒーの淹れ方レクチャーなどを実施くださいました。

福岡市 / 福岡よかトピア国際交流財団

3月、福岡で来日医療を行うミャンマー人患児オッカー・チョー君に付き添うご家族の宿舎をご提供いただき、初めての海外生活と大きな手術を家族で乗り越えるための安心できる住環境を整えてくださいました。

株式会社ミルフィーユ

クリスマス期間中、「お菓子工房ミルフィーユ」にてジャパンハートを紹介する特製パンフレットをお客様に配布くださり、活動への理解を深める活動にご協力くださいました。

▶Topics

ロゴ刷新！次のステージへ

ジャパンハートは、変化する現地ニーズに適した支援の実現と国内外での支援拡大を目指し、2017年度、組織体制を新たにしました。この度、その一環として、ロゴの刷新を行いました。

旧ロゴデザインを取り入れることで、団体のあゆみの上に新たな歴史を積み上げる意識を表し、世界の人々の心に刻まれるイメージとして新ロゴは作成されました。また、旧ロゴにあった赤い丸とハート本体を融合させ「心をよせる」という意味を持たせました。

新ロゴは株式会社エイタブリッシュ清野玲子様 / 川村明子様、エイプリル株式会社宅間頼子様のご支援で完成しました。

▶2017年の主なメディア露出

８月　産経新聞「話の肖像画」　吉岡秀人インタビュー７日間連載

11月　ニッポン放送「阿部亮の NGO 世界一周」
　　出演・カンボジア / 長谷川彩未

12月　FM 横浜「サンスター　ウィークエンドジャーニー」
　　出演・代表 / 吉岡春菜

１月　テレビ東京「未来世紀ジパング～沸騰現場の経済学」
　　出演・最高顧問 / 吉岡秀人

３月　フジテレビ「あいのり：Asian Journey」
　　出演・最高顧問 / 吉岡秀人

その他 / 読売新聞、毎日新聞、西日本新聞、NHK ニュース、FBS 福岡放送、ニッポン放送、メディアロッコウ、ナース専科、他

会計報告

▶2017年度　活動計算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで　（単位：円）

科目	決算額	前年度決算額
Ⅰ　経常収益		
1　受取会費	21,794,000	20,048,208
2　受取寄附金・資産受贈益※1・受取役務寄附金※2	296,022,898	186,789,092
3　受取助成金等	9,228,432	9,705,587
4　事業収益	63,724,178	68,938,774
5　その他収益	7,748,552	2,206,111
経常収益計	398,518,060	287,687,772
Ⅱ　経常費用		
1　事業費		
(1) 人件費	83,711,649	70,006,337
(2) その他経費	138,778,943	120,902,833
旅費交通費	23,274,451	17,871,301
学業・子ども支援費	21,642,078	16,981,729
消耗品費※1	17,951,408	9,580,964
減価償却費	12,464,895	12,180,815
医療支援・医療器具備品費	11,473,433	14,581,595
地代・家賃	10,798,832	8,918,612
広告宣伝費※2	10,180,978	9,317,318
その他活動に係る経費	30,992,868	31,470,499
事業費計	222,490,592	190,909,170
2　管理費		
(1) 人件費	12,836,681	12,282,487
(2) その他経費	13,132,053	8,327,619
管理費計	25,968,734	20,610,106
経常費用計	248,459,326	211,519,276
当期経常増減額	150,058,734	76,168,496
Ⅲ　経常外収益		
固定資産売却益（海外車両）	-	654,872
経常外収益計	-	654,872
Ⅳ　経常外費用		
固定資産売却損（国内車両）	-	435,185
固定資産売却除却損（国内土地）※3	7,560,000	-
控除対象外消費税等	-	1,476,862
経常外費用計	7,560,000	1,912,047
税引前当期正味財産増減額	142,498,734	74,911,321
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	142,428,734	74,841,321
前期繰越正味財産額	343,464,706	268,623,385
次期繰越正味財産額	485,893,440	343,464,706

*1 医療消耗品、衛生用品などの現物寄附約12,600千円相当を資産受贈益として計上し、同時に消耗品費として同額を計上しています。

*2 企業が無償提供している広告枠の約8,000千円相当を受取役務寄附金として計上し、同時に広告宣伝費として同額を計上しています。

*3 2011年度に東日本大震災復興支援事業のクリニック建設のため取得した宮城県石巻市の土地を売却しました。

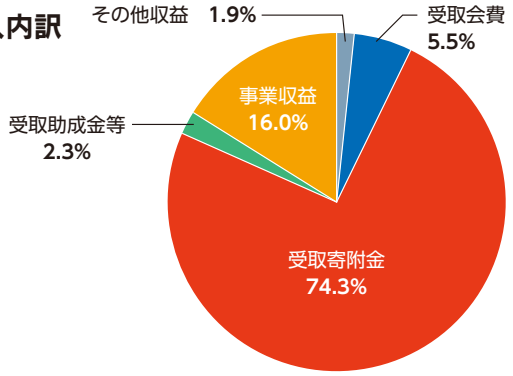
今期からは税込経理方式を採用しております。

▶2017年度　貸借対照表

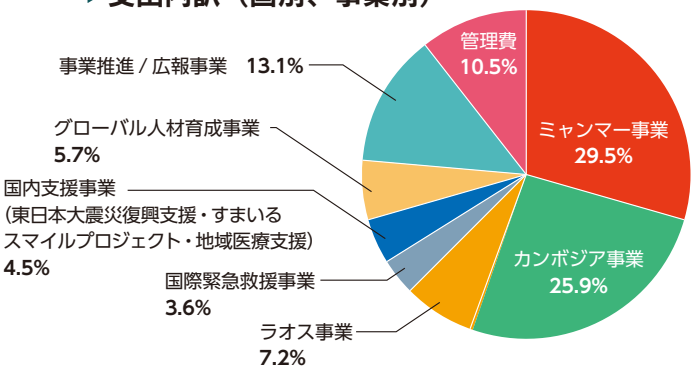
2018年3月31日現在　（単位：円）

科目	決算額
Ⅰ　資産の部	
1　流動資産	
現金預金	293,170,060
棚卸資産	965,464
前払費用	5,339,876
未収金	4,674,976
その他	2,288,843
流動資産合計	306,439,219
2　固定資産	
土　地	49,652,707
建　物	46,882,226
建物付属設備	3,294,001
工具器具備品	20,030,570
ミャンマー土地賃借権	19,326,462
敷　金	2,805,796
建設仮勘定	51,349,555
その他	5,615,325
固定資産合計	198,956,642
資産合計	505,395,861
Ⅱ　負債の部	
1　流動負債	
前受金	13,640,000
未払金	4,428,814
預り金	1,338,807
その他	94,800
流動負債合計	19,502,421
負債合計	19,502,421
Ⅲ　正味財産の部	
前期繰越正味財産	343,464,706
当期正味財産増減額	142,428,734
正味財産合計	485,893,440
負債及び正味財産合計	505,395,861

▶収入内訳



▶支出内訳（国別、事業別）



特定非営利活動法人 ジャパンハート

問い合わせ・資料請求

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局
〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6 セントオフィス秋葉原 10 階
TEL. 03-6240-1564　FAX. 03-5818-1610
E-mail：info@japanheart.org　URL：http://www.japanheart.org/

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。